

△フロリネフ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 フルドロコルチゾン酢酸エステル (U) Fludrocortisone Acetate 【分類】 鉱質副腎皮質ホルモン剤

【単位】 $\Delta 0.1\text{mg/錠}$

【常用量】 0.02~0.1mg/日

【用法】 分2~3

【透析患者への投与方法】 常用量 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (5)

【特徴】 強力な鉱質コルチコイド作用を有し特に Na 貯留作用が強い。通常の治療量においては糖質コルチコイド作用を示さない。喪失型先天性副腎皮質過形成症、塩喪失型慢性副腎皮質機能不全（アジソン病）に適用される。

【主な副作用・毒性】 誘発感染症、感染症の増悪、浮腫、血圧上昇、高 Na 血症、低 K 血症、続発性副腎皮質機能不全、糖尿病、月経異常、消化性潰瘍、肺炎、消化器症状、口渇、食欲亢進、精神変調、うつ状態、不眠、痙攣、骨粗鬆症、満月様顔貌、白血球増多、血栓症、多毛、色素沈着、紫斑、発熱、疲労感、体重増加など

【吸収】 消化管より吸収され、速やかに加水分解を受け、ヒドロコルチゾンを生じる (1) 95%以上 (11) $k_a=6.40/\text{hr}$ (1)

【F】 初回通過効果により 90%消失する (11) 資料なし (1)

【 t_{max}] 45 分 (1)

【代謝】 消化管より吸収され速やかに加水分解を受けフルドロコルチゾンを生じる (1) 21 位の脱酢酸体と Δ^3 -ケトン基が還元された代謝物の抱合体が確認 (1)

【排泄】 尿中回収率 28% [24hr まで] (1) 活性のない代謝物として尿中に回収される (U) 主に肝胆道系から消失 (1)

【 $t_{1/2}$] 7.2hr (1) 0.5hr (11) 血中 3.5hr, 生物学的 18~36hr (U) $k_e=0.0957/\text{hr}$ (1)

【蛋白結合率】 70~80% (11) 40~70% [ラット] (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 422.49

【MW】 422.49

【透析性】 蛋白結合率が高いため、除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない

【相互作用】 バルビツール酸誘導体、フェニトイン、リファンピシム：CYP 誘導による作用減弱の可能性 (1) サリチル酸の血中濃度上昇 (1) 血液凝固促進作用があり、ワルファリンの作用減弱の可能性 (1) 経口糖尿病用剤、インスリン製剤の作用を減弱：糖新生の促進による (1)

【効果持続時間】 1~2 日 (U)

【更新日】 20230328

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。